凡　　例

1）“WINDOW ON JAPAN”の英文は原本のコピーをそのまま使用して左側に配し、その右側に邦訳文を配した。

2）文中の（　　）は、そのまま用い、訳注として〔　　〕を用いた。

3）原文中の誤記と思えるものには網掛けを施し、翻訳においてこれを訂正した。なお、誤記については、巻末の正誤表においてこれを示した。

例１）７ページで広島の特産物として persimmons（柿）が紹介されているが、それを oysters（牡蠣）の誤記であろうと考え、oysters として翻訳した。

例２）58ページの、広島への原爆投下の two days later は明らかに three days later の間違いである。ただ、原文に写真コピーを採用していて原文中での訂正が不可であるため、two days later に網掛けを施しそれが誤記であることを示すとともに、正誤表においてその誤りを指摘したうえで、three days later として翻訳を行なった。

4）全編を通じて左右対照を最優先した。そして訳文は、一文一文にはこだわらず、パラグラフ単位で正確さを期するように努めた。例えば８ページ〔原典６ページ〕の「Queen of the mountains」という件（くだり）など、霊峰「富士のお山」ということばを入れたかったために、４行も後になって「それこそ山の女王の威厳をもって聳え立っており」としたのもその一例である。

5）本書のページ番号は各ページの下部に示したが、それと併行して、両書原文のページ番号を各ページ上部にも付した。

6）Leonora Edith Lea 年譜は『松蔭女子学院史料　第九集』所収のものを補訂したものを再録した。